

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531301

研究課題名(和文) 広汎性発達障害のある学生への就労支援 インターンシップの効果

研究課題名(英文) Employment Support for the Students with Pervasive Developmental Disorders -Effect of the internship (job experience)-

研究代表者

北添 紀子 (KITAZOE, NORIKO)

高知大学・教育研究部医療学系・講師

研究者番号：70284437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自閉スペクトラム症(ASD)の疑われる大学生に対する就労支援のファーストステップとして、学内でのインターンシップ経験とそのフィードバックを行い、効果を検討した。本研究はASD特性のある学生に配慮して計画をしたが、参加者はASDのある学生には限定しなかった。

参加者のうちASDが疑われた学生において、1)ほとんどの学生がインターンシップをポジティブに評価していた。2)就職に対する不安は、半数以上の学生で減少していた。3)ローゼンバーグ自尊感情尺度はインターンシップ後が有意に上昇していた。本研究により、学生は自信をつけ、職業に関連した自分の特性を理解するきっかけとなったと考えられた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research was to investigate the effect of on-campus internships conducted as a first step in supporting the employment of university students with autism spectrum disorder (ASD). It was conducted with special consideration for students with ASD traits but did not exclude others.

The data of the students who were suspected of having ASD were analyzed. 1) Most of the students perceived the experience positively. 2) More than half of them decreased their anxiety against job hunting. 3) The scores of Rosenberg's Self-esteem Scale were significantly higher after the internships than before them. The students strengthened their self-confidence and deepened their understanding of their own traits in relation to jobs.

研究分野：社会科学

キーワード：自閉スペクトラム症 就労支援 インターンシップ 職業イメージ 大学生

## 1. 研究開始当初の背景

大学における自閉スペクトラム症 (ASD) のある学生への支援の重要性が指摘され、狭義の心理療法だけでなく並行して就職指導などを行うことが指摘されて久しい (辻井, 宮本, 2000)。ASD のある人の就職に関する研究では、通常学級で義務教育を受け、高等学校、大学を中退した人、また、卒業したがその後就職ができない、あるいは就職しても離職を繰り返している人が多いという指摘 (石橋, 2007) や、高校や専修学校、大学等のいわゆる通常教育歴のある場合は、利用できる通常の新規学卒就職の仕組みでは、円滑な移行ができなかった者が半数を超えているという指摘 (障害者職業総合センター, 2009) がある。また、就労の失敗は「社会的引きこもり」や「ニート」につながりやすいことが示唆 (小川他, 2006) されている。

ASD のある人の求職活動上の支援課題は、職業イメージの不足、求職活動に必要なスキルの不足が指摘されている (柴田, 2005)。小川ら (2006) は、ASD のある人の就労支援で重要なことは、「自己認知に基づいた適職のイメージ作りを支援する」ことであると述べている。

我々は ASD のある学生のグループ活動の支援を行い、その中で、発達障害者支援センター、障害者職業センター、ハローワークと連携し、就労への動機づけを図った (北添他, 2010)。しかしそれだけでは動機づけは高まったものの次段階への移行は困難な学生もいた。ASD のある学生が「適職のイメージづくり (小川他, 2006)」をするためには、職業体験を行うこと、さらに、その経験を踏まえ、具体的な場面に基いて話し合うことによる自己理解を深めることが重要であると考えた。

## 2. 研究の目的

ASD の疑われる大学生に対する就労支

援のファーストステップとして、校内でのインターンシップでの経験とそのフィードバックが、職業意識の形成につながるどうかを検討する。学生に対し、大学内にある企業 (大学生協) で短期間のインターンシップを提供する。支援者は、校内インターンシップ中の現実場面に即したフィードバックをする。インターンシップ前後に面接、心理テスト、職業興味に関するテストを行い、職業の興味と適職のマッチング、職業意識の変化、就職に対する不安を検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 参加者および分析対象者

校内インターンシップの参加者は、自ら企業に連絡をすることに躊躇する学生、自信がない学生、アルバイトやインターンシップ経験を適切に振り返ることができない学生とした。従って参加者は、本インターンシップを希望する学生で、ASD のある学生には限定していない。

参加者のうち、ASD があると考えられた学生は 13 名 (男性 7 名、女性 6 名) であった。これらの学生は診断を受けている学生の他、日頃の言動、本人からの生育歴の聞き取りで ASD が疑われた学生も含まれている。分析の対象はこの 13 名とした。

### (2) インターンシップの実施計画

インターンシップは以下を考慮して計画をした。

複数の職種の体験ができるように計画をした。

学生が苦手意識を持っている作業は避けてもらう。

学生に、事前事後質問紙結果のフィードバックをし、自分の特性、職業への興味、志向性と、その変化、および体験した職業とのマッチングについて話し合う。

実施期間は長期休みとした。

### (3) インターンシップの実施手順

インターンシップは以下の手順で行った。

#### 参加学生との打ち合わせ

生協に提供する情報の内容の確認、避けたい職種、希望の職種について学生と話し合った。生協に提供する情報とは、例えば、イエス、ノーで返事をするほうがしやすい、具体的に指示してもらおうと行動がスムーズである、「自分で考えて」といわれると混乱しやすいなどである。

#### 生協との打ち合わせ

学生と話し合った事項のうち、学生の同意が得られた内容（個人の情報、職種の希望）を生協に伝え、それをもとに、各学生に合わせスケジュールを作成してもらった。

#### 事前質問紙

インターンシップ前後を比較するものとして、半構造化面接、状態・特性不安検査（STAI; Spielberg, 1970; 水口他, 1991）、ローゼンバーグ自尊感情尺度（Rosenberg, 1965; 桜井, 2000）、職業レディネス・テスト（VRT; 労働政策研究・研修機構）、VPI 職業興味検査（日本労働研究機構）をおこなった。インターンシップ前のみを実施した質問紙は、General Health Questionnaire（GHQ; Goldberg, 1972; 中川・大坊, 1985）、the Autism-Spectrum Quotient（AQ; Baron-Cohen et al., 2001; 若林他, 2004）、Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版（LSAS-J; Liebowitz, 1987; 朝倉他, 2002）であった。

#### 学生との最終打ち合わせ

文書にてスケジュールの確認などの最終打ち合わせを行った。

#### インターンシップ実施

1日6時間、5日間のインターンシップを行った。1日目終了後、学生、生協スタッフ、就職室スタッフ、ハローワークより

派遣されているジョブサポーター、保健管理センタースタッフで振り返り面接を行った。困ったことの有無、業務内容など、改善点の有無について話し合った。また、ジョブサポーターより学生に対して残りの日程でのアドバイスをしてもらった。

#### 事後質問紙記入

#### 事後面接

インターンシップ前後の質問紙結果のフィードバックを行った。また、学生からは感想を聞いた。さらに、インターンシップの体験と質問紙結果も合わせ、今後の職業選択について話し合った。

### (4) 倫理的配慮

本研究は高知大学医学部倫理委員会の承認を得て実施をした（23-48）。

## 4. 研究成果

### (1) 事前質問紙結果

GHQ28、AQ、LSAS-J、ローゼンバーグ自尊感情尺度、STAI（状態）、STAI（特性）の平均値はそれぞれ、10.3、30.6、77.5、21.3、46.2、57.5であった。GHQ28、AQ、LSAS-J、STAI（特性）の得点は大学生を対象とした先行研究（中川・大坊, 1985; 若林他, 2004; 岡島他, 2007; 水口他, 1991）より高かった。ローゼンバーグ自尊感情尺度は先行研究より低かった（桜井, 2000）。

### (2) インターンシップへの参加理由（複数回答）

インターンシップへの参加理由は、「インターンシップやアルバイトの経験がないので、インターンシップ体験を行ってみたい」が最も多く9名で、「インターンシップの経験がないと就職が不安」の4名を合わせると、インターンシップの体験希望はのべ13名であった。

### (3) インターンシップ体験の自己評価

インターンシップ後の面接で、11名の学生が体験をポジティブにとらえていた。良かった理由としては、思ったより仕事できた、スタッフが優しく働きやすかった、いい刺激になった、自分に合う仕事があった、楽しかったなどであった。

### (4) インターンシップ後の状態(複数回答)

インターンシップへの参加時期により、観察期間は6か月から30か月後と幅があった。地域障害者職業センター利用(職業評価、相談を含む)が4名、アルバイト従事が4名、就職活動中が3名、他のインターンシップ参加が2名、退学が2名、若者サポートステーション利用が2名、他の学校等在籍が2名、就職が1名であった。

### (5) 就職に対する不安

就職に対する不安について、インターンシップ前後の面接で5段階評価を行い、比較をした。就職に対する不安は、8名が減少、2名が不変、3名が増加していた。不安が減少した8名のうち5名は2段階以上不安が減少していた。1名は2段階以上不安が増加していた。

### (6) 質問紙調査の変化

心理査定(表1)

インターンシップ前後の質問紙の変化は、ローゼンバーグ自尊感情尺度で有意差が認められ、インターンシップ後が上昇していた。

表1 質問紙の変化 (Wilcoxonの符号付き順位検定)

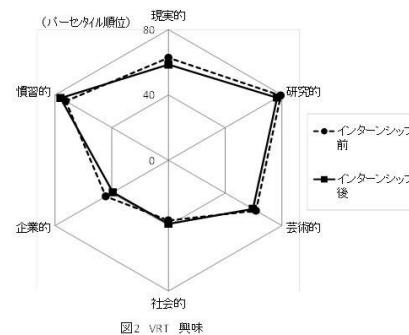
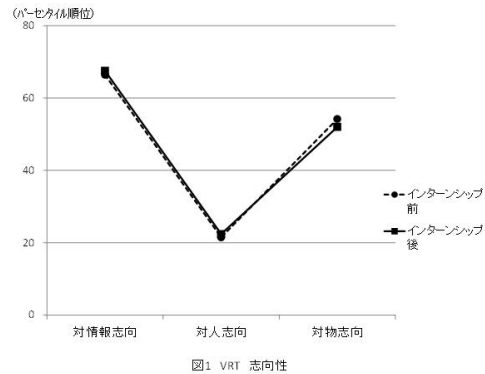
質問紙	平均値		p
	前	後	
ローゼンバーグ自尊感情尺度	21.3	24.6	0.03
STAI(状態)	46.2	41.0	n.s.
STAI(特性)	57.5	55.9	n.s.

n.s. not significant

職業領域の質問紙(図1, 2)

VRTのすべての項目でインターンシップ前後での有意差が認められなかった。志

向性(対情報、対人、対物)では、対人志向が低かった。興味(現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6項目よりなる)において、研究的、慣習的職業領域への興味が強かった。しかし、すべての項目は16~84パーセンタイル順位の範囲内であった。



VPIは、インターンシップ前後の比較で、Mf尺度(男女を問わず、一般に男性的といわれる職業にどの程度強い関心を持っているかを示す)で有意差が認められ、インターンシップ後が上昇していた。プロフィール全体ではInf尺度(職業に対する見方がどの程度常識にとらわれずユニークであるかを示す)が突出していたが、全ての項目は16~84パーセンタイル順位の範囲内であった。

### (7) 考察

今回分析対象となった学生の中には、ASD特性があるだけでなく、不安などの精神的不調を訴える人も多かった。そのよう

な学生にとっては、馴染みの環境でのインターンシップは、少しでも参加までの不安を少なくできるのではないかと考えられた。また、今回のインターンシップはASDのある学生にとって取り組みやすいプログラムだったと考えられ、それが就職に対する不安の減少やローゼンバーグ自尊感情得点の上昇につながったと考えられた。

さらに、VRT(VPI)の結果を視覚的に確認できる結果として活用し、実際の体験を通して職業と関連する自分の特性についての自己理解を深めることが、将来の適切な進路選択に役立つ可能性があると考えられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

Kitazoe, N., Inoue, S., Izumoto, Y., Kumagai, N., & Iwasaki, Y. (2015): The Autism-Spectrum Quotient in university students: Pattern of changes in its scores and associated factors. *Asia-Pacific Psychiatry*, **7**, 105-112. 査読有

北添紀子, 平野晋吾, 寺田信一, 泉本雄司, 是永かな子, 上田規人, 玉里恵美子 (2015): 自閉スペクトラム症のある学生への就労支援 学内インターンシップの効果の検討. *LD 研究*, **24**, 111-119. 査読有

Kitazoe, N., Inoue, S., Izumoto, Y., Kumagai, N., Terada, S., & Fujita, N. (2014): Association between autistic traits and social anxiety among Japanese university students. *International Journal on Disability and Human Development*. **13**, 63-70. 査読有

北添紀子, 平野晋吾, 寺田信一, 泉本雄司, 是永かな子, 玉里恵美子 (2013): 自閉症スペクトラムのある

学生への就労支援 学内インターンシップの試み. *CAMPUS HEALTH*, **50**, 143-148. 査読有

是永かな子 (2013): フィンランドにおける段階的支援としての特別教育と個別計画の活用. *高知大学教育実践研究*, **27**, 70-82. 査読無

矢野川祥典, 是永かな子 (2013): 高知県の産業構造に着目した知的障害者の就労状況分析と雇用開発. *高知大学教育学部研究報告*, **73**, 123-130. 査読無

北添紀子, 泉本雄司, 熊谷直子, 平野晋吾, 寺田信一, 是永かな子 (2012): The University Personality Inventory (UPI) は the Autism-Spectrum Quotient (AQ)の代わりとして活用できるのか? *CAMPUS HEALTH*, **49**, 73-78. 査読有

北添紀子 (2012): 広汎性発達障害のある大学生の心理療法過程 箱庭療法を中心に. *箱庭療法学研究*, **24**, 19-34. 査読有

是永かな子 (2012): スウェーデン・パティレ市における知的障害者の就労支援— 日中活動保障から一般就労への移行支援に注目して—. *高知大学学術研究報告*, **61**, 17-24. 査読無

岡崎高志, 是永かな子 (2011): 高知県の高等学校における発達障害のある生徒への修学支援—特別支援教育コーディネーターを対象とした調査から—. *高知大学教育学部研究報告*, **71**, 129-144. 査読無

〔学会発表〕(計 5 件)

北添紀子, 上田規人, 平野晋吾, 寺田信一, 是永かな子, 玉里恵美子, 岩崎泰正: 自閉症スペクトラムの特性に配慮した就職面接セミナーの開発(1). 第51回全国大学保健管理研究集会,

2013年11月14日，岐阜

北添紀子，泉本雄司，上田規人：自閉症スペクトラムのある大学生への就労支援—校内インターンシップの試みとその評価—．第 54 回児童青年精神医学会総会，2013 年 10 月 12 日，札幌．

北添紀子，平野晋吾，寺田信一，泉本雄司，是永かな子，玉里恵美子：自閉症スペクトラムのある学生への就労支援 校内インターンシップの試み ．第 50 回全国大学保健管理研究集会，2012 年 10 月 18 日，神戸市．

北添紀子，惣田聡子，梅田牧，岩崎泰正：自閉症スペクトラムのある学生に対するグループ活動の効果．第 42 回中国・四国保健管理研究集会，2012 年 8 月 30 日，高松市．

北添紀子，泉本雄司：社交場面の不安・恐怖が the Autism-Spectrum Quotient (AQ) に及ぼす影響．第 51 回日本児童青年精神医学会総会，2011 年 11 月 10 日，徳島市．

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

北添 紀子 (KITAZOE, Noriko) 高知大学・教育研究部医療学系・講師 研究者番号：70284437

### (2)研究分担者

寺田 信一 (TERADA, Shin-ichi) 高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授 研究者番号：00346701

平野 晋吾 (HIRANO, Shingo) 白鷗大学・教育学部・講師 研究者番号：90571654

是永 かな子 (KORENAGA, Kanako) 高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授 研究者番号：90380302

上田 規人 (UETA, Norihito) 高知大学・保健管理センター・医療技術職員 研究者番号：70714187

玉里 恵美子 (TAMAZATO, Emiko) 高知大学・教育研究部総合科学系・教授 研究者番号：40268165